

和宮行列 中山道散策

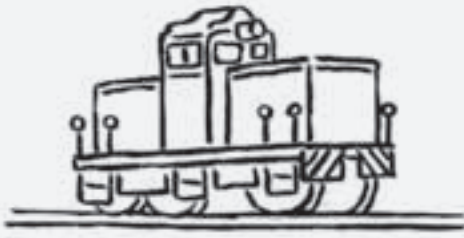
～和宮降嫁行列に思いを馳せる約7kmの街道散歩～

赤坂宿～小簾紅園

中山道赤坂宿から東の小簾紅園まで、皇女和宮様ご降嫁の行列ゆかりの史跡をめぐるながら散策します。約6.3キロのコースですが、赤坂宿に残る古い町並みや川湊から、田園の中にぽつりと立つ街道の道標、ハイライトの小簾紅園まで田舎町を歩く気持ちの良いお散歩コースです。（距離：約6.3km）

1 JR美濃赤坂駅

赤坂宿めぐりの出発はJR美濃赤坂駅。今では貴重な木造のこの駅は、金生山から産出される石灰輸送の中継地点となっています。



3 赤坂宿本陣跡(赤坂本陣公園)

間口24間、奥行33間、面積約800坪(2,600㎡)、建坪239坪(790㎡)で中津川本陣に次いで県下2番目の大きさを誇り、門構え、玄関付、書院造、上段の間等の豪華な造りでした。公園の奥には幕末に長州藩に入り活躍した赤坂出身の所都太郎の銅像があります。



9 小簾紅園

落ちていく 身と知りながら もみじ葉の
人なつかしく こがれこそすれ

公武合体のため仁孝天皇の第8皇女和宮(かずのみや)が徳川第14代将軍家茂公に嫁ぐため中山道を御降嫁の折、呂久川(現在の掛斐川)を御座船でお渡りになる際に美しく紅葉しているもみじを一枝、舷に立てさせて玉簾の中から詠まれた歌です。この御渡船を記念し、呂久の地に記念碑建立の気運が高まり、昭和4年4月に小簾紅園が完成しました。その後、毎年春と秋の2回、宮の遺徳をしのび例祭が行なわれています。



呂久川と渡し

呂久の渡しは、赤坂宿と美江寺宿の間を流れる呂久川(現掛斐川)にかかる渡し場で天正8年(1580年)に織田信長の子信忠によって設けられました。安土桃山時代、織田信長が近江の安土城に居所を移したころから、美濃と京都の交通が頻繁となり、赤坂から美江寺、河渡、加納の路線が栄え、呂久川にも渡し場が設けられたのです。これが江戸時代初期に整備された五街道のひとつである中山道となり、呂久の渡しもそれ以来、交通の要所となりました。呂久の渡しの川幅は平常時で90m、大水では180mにも及び、流れの速い難所でした。このため、水位が45%で馬が通行禁止となり、50%で川止めとなりました。呂久川は、呂久の集落の西側を湾曲しながら流れていましたが大正から昭和にかけての河川改修で直線化し掛斐川として生まれ変わりました。現在、小簾紅園のある場所は、かつては呂久川の流れであった場所です。



2 赤坂宿道標と枅形

今はゆるやかなカーブになっていますが枅形の様子が見えます。四辻に立っているのは中山道では4番目に古い道標です。天保2年に建立され京都、草津、軽井沢に次いで古いもので、「左たにくみ道」と書いてあり、北へ19kmの谷汲山華厳寺への案内です。



4 赤坂港会館

今は小さな水路ですが、享禄3年(1530年)6月の奥掛斐の大洪水までは掛斐川は杭瀬川と合流して赤坂村の東を流れていました。西側の建物は明治8年赤坂の4辻にあった屯所(警察署)を復元したものです。明治後半から金生山の石灰を運ぶ舟が登録数で386隻、小さな舟まで合わせると500隻以上あり大変賑わいました。



6 七回り半(標柱)

「中山道 七回り半」と刻まれています。曲がりくねった道が続いていたのでしよう。今は七回りほどありませんが、道が少しくねっている様子がわかります。

7 聖観世音菩薩(道標)

この頃の道標は、お地藏様や観音様と一緒にいるものも多く見受けられます。観音様などを一緒に祀ることによって大垣藩から道標を建てることを許されたようです。



8 一里塚跡

江戸から数えて九十九番目の一里塚跡です。今は神社の境内に案内板が立つのみです。

船頭寄「馬淵家」
明治天皇小休所跡
馬淵家は、織田氏支配の頃から掛斐川の呂久の船渡業を営む権利を持っていました。慶長15年頃には、呂久の渡しの船頭屋敷は13軒を数え、船頭寄「馬淵家」は、船頭8人を置くほどでした。家のすぐ横に、明治天皇小休所跡があります。